

2024-2025 年度 部長方針・活動計画

六甲部部長 小野 ともに 勅紘 (西宮)

1. 部長主題

「一人は万人のために、万人は一人のために」 “One for all, All for one”

スローガン

Y (YMCA) ・ Y (ワイズ) ・ Y (ユース) が、W (ウィン) ・ W (ウィン) ・ W (ウィン) の関係で互いに支え合
いましょう！

2. 活動方針

かつて06-07年度元理事の森本榮三ワイズ(元高槻クラブ、2022年12月ご逝去)は理事主題に「一人は皆のために、皆は一人のために(One for all, All for One)」を掲げられました。この言葉は日本ではラグビーの結束を高める合言葉となっています。

そのルーツは1618年宗教改革の時代に、チェコのプラハで、プロテスタント側と、カトリック側とのいざこざで、プロテスタント側が結束を固めるために掲げた言葉だと伝えられています。その後三銃士に使われたり、1899年に日本にラグビーが入ってきた時には、早大の佐藤武之監督が結束を固めるために、“One for all, All for won”と解釈を少し変えて皆を鼓舞したり、1920年には日本に生協を始めて普及させた社会事業家で牧師の賀川豊彦は「一人は万人のために、万人は一人のために」の言葉を使いました。その昔、石田三成は「一大万大吉」の旗印を掲げて関ヶ原の戦いに臨みました。趣旨は同じです。

このように、一人ひとり(個)の集まりが、皆(全体)の力になり、皆(全体)の力が、一人ひとり(個)のために働くことが、ボランティアや奉仕の原点です。そこで私たちは、原点に立ち返り、ワイズの活動を高めて行きたいと思えます。それには一人ひとり(個)のパワーと、創意工夫(アイデア)と、主体性(アイデンティティ)が必要です。すなわちそれこそが“EMC”や“地域奉仕”や“交流”にも繋がります。その過程の中では常に“PDCA”を確認しましょう。

コロナで私たちは“集まり”を失っていましたが、その“集まり”を戻して行きましょう。何を(what)、誰が(who)、どのように(how)、どこで(when)、なぜ(why)、いつ(when)それは今ですよ！

そして、私たちはお互いに、Y・Y・YがW・W・Wの関係で支え合いましょう。

3. 活動計画

- ①六甲部：部長として部輩出の理事をサポートし、西日本区大会を成功に導くこと、&組織改革
- ②Yサ・ユース事業：YYYが互いに支え合って、多くの事業を実現
- ③地域奉仕・環境事業：キラリと輝るアート展の継続支援、SDGsの実現
- ④EMC事業：EMCシンポジウム、YMCAやユースにも広げるEMC活動、+10
- ⑤メネット：例会や多くの集まりに参加を促し、支援体制の強化、メネットの役割の重要性
- ⑥広報・デジタル：パンフレットの更新、活動が広く「見える化」、SNSの利用等

4. 部行事予定

- ①準備役員会：5月
- ②評議会；第1回7月、第2回3月、+1(中間)
- ③六甲部部会：11月2日(土)予定
- ④YYYフォーラム、チャリティラン、各種チャリティ

5. その他の計画・特記事項

新クラブチャーター情報の集積と、チャーター活動の開始、アイデア募集

6. 部役員

役職	名前	所属クラブ	役職	名前	所属クラブ
部長	小野 勅紘	西宮	メネット	中道 京子	神戸
次期部長	柳 敏晴	神戸西	デジタル小委	大岩 雅典	芦屋
直前部長	井出 浩	神戸	代議員	井出 浩	神戸
書記	濱 浩一	西宮	代議員	小野 勅紘	西宮
会計	山本 常雄	西宮	監事	若林 成幸	宝塚
広報	石田 由美子	宝塚	担当主事	森川 俊介	西宮

7. 事業主査

事業	名前	所属クラブ
Yサ・ユース	柳 敏晴	神戸西
地域奉仕・環境	柴田 昌一	神戸学園都市
EMC	島田 恒	芦屋
国際・交流	北島 伸三	神戸ポート

8. クラブ会長

クラブ名	会長名	クラブ名	会長名
神戸	尾上 尚司		
西宮	濱崎 進一		
神戸西	大田 厚三郎		
神戸ポート	園田 将人		
宝塚	長尾 亘		
神戸学園都市	杉本 隆人		
芦屋	柏原 佳子		